

生育診断を確実にし、適正な穂肥対応をしましょう。 根の活力を維持し、気象変動に強い稲づくりの実践を。 畦畔等の草刈りを徹底しましょう。

7月9日現在の生育は、草丈は平年より長く、茎数は依然としてほ場の差が大きく、葉数は平年並～やや多く、葉色はやや濃い状況です。

出穂期は平年並～2日早い予想です。「つや姫」、「雪若丸」は穂肥時期を迎えています。

全般的に葉色が濃く、圃場間のバラつきが大きいいため、圃場ごとの生育診断が必須です。遅れずに生育診断に基づく適正な量の穂肥を行いましょう。

生育状況（7月9日現在）

平坦部「はえぬき」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	62.4	107	長い
茎数(本/m ²)	571	90	少ない
葉数(枚)	11.1	+0.1	並
葉色(SPAD)	46.1	+1.9	やや濃い

「つや姫」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	59.9	106	長い
茎数(本/m ²)	579	106	多い
葉数(枚)	10.9	+0.1	並
葉色(SPAD)	42.5	+1.7	やや濃い

「雪若丸」の生育

項目	飯豊町		概況 (指標値との比較)
	調査値	指標比・差	
草丈(cm)	60.3	116	長い
茎数(本/m ²)	713	115	多い
葉数(枚)	11.0	+0.6	多い
葉色(SPAD)	47.3	+6.3	濃い

1か月予報（7月9日仙台管区气象台発表）

気温：7/11～7/17：平年並か低い見込み
7/18～7/24：平年並の見込み
7/25～8/7：平年並みか高い見込み
降水量：平年より多い見込み
日照時間：平年より少ない見込み

穂肥の後は根の活力維持！

○穂肥終了後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）とし、徐々に間断かん水（2日湛水・2日落水）に切り替え、根の活力を維持します。

○6月下旬からの断続的な降雨の影響で、中干しが十分に行えなかったほ場では、間断かん水の落水期間をやや長めにしましょう。

今後低温が予想される時には、下記の対応で被害を最小限に留めましょう！

「前歴深水管理」：出穂25日前頃から10cm程度の深水にし、耐冷性を高めます。

「穂孕み期の低温時水管理」：出穂前14～7日は低温により最も障害不稔を生じやすい期間です。最低気温17℃以下の低温が予想される場合は15cm以上の深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

※深水管理には、あらかじめ畦畔のかさ上げや漏水防止、用水の確保が必要となります。

生育診断を必ず行い、適正量の穂肥を！

○穂肥の施用時期は下表を目安にし、施肥量の判断は品種毎の生育診断に基づき行いましょう。

品種	出穂期 (本年予想)	出穂期 (平年)	穂肥の タイミング	穂肥時期の 目安	施肥量 (N kg/10a)
ひとめぼれ	8月2～4日	8月4日	出穂20日前	7月13～15日	1.5
雪若丸	8月3～5日	8月5日	出穂25日前	7月9～11日	1.5
はえぬき	8月4～6日	8月6日	出穂25日前	7月10～12日	1.5～2.0
つや姫	8月9～11日	8月11日	出穂30日前	7月10～12日	1.0～1.5
コシヒカリ	8月10～12日	8月12日	出穂18～15日前	7月23～28日	1.0～1.5

【幼穂長と出穂前日数】 ～幼穂の長さで出穂前日数を判断～

幼穂の長さ：出穂前日数 → 0.5～1mm：25日 1.5～2.0mm：20日 8～15mm：18日 2～5cm：15日

「今年は、葉色が濃い圃場が多い！穂肥量は慎重に判断しましょう！」

🌱 つや姫の穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数 600 本/m²以下かつ葉色（SPAD）39 以下の場合→出穂 30 日前：N 成分 1.5 kg/10 a
- 茎数が 600～650 本/m²、または葉色（SPAD）が 39～41 の場合→出穂 30 日前：N 成分 1.0 kg/10 a 以下
- 茎数 650 本/m²以上、または葉色（SPAD）41 以上
→出穂 25 日まで葉色が低下したら、N 成分 1.0 kg/10 a。葉色が低下しない場合は追肥を行わない。

🌱 雪若丸の穂肥診断 6月30日頃（9.5葉期）

- 茎数 560～750 本/m²以下、葉色（SPAD）40～44 の場合→出穂 25 日前：N 成分 1.5 kg/10 a
- 茎数 560 本/m²未満、葉色（SPAD）40 未満の場合→早めの穂肥、出穂 30～25 日前：N 成分 1.5 kg/10 a
- 茎数 750 本以上、葉色（SPAD）44 以上の場合→出穂 25 日前、葉色の低下を確認し N 成分 1.0～1.2 kg/10 a

はえぬきの穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数 700 本/m²以下、葉色（SPAD）40 以下であれば、追肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5～2.0 kg/10a を施用します。

いもち病に注意！

- 「葉いもち」の発生に要注意！感染好適日が連続して発生しています。
早期発見・早期防除を徹底しましょう。
- 「穂いもち」対策の粒剤は出穂 20～10 日前に施用しましょう。



葉いもちの病斑

注意報発表！「斑点米カメムシ類の発生」多い！

- 地域全体で斑点米カメムシ類の密度を減らすことが重要です。
- 7月20日頃まで畦畔・農道、雑草地の除草（草刈）を地域ぐるみでしっかり行いましょう。
- 水田内のイヌホタルイヤノビエは、アカスジカスミカメの発生源になります。残草対策を徹底しましょう。
※除草剤の使用基準を確認し、使用しましょう。



アカヒゲホソドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

農作業事故・熱中症に注意！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～